

看護学専攻博士前期課程

課程のディプロマ・ポリシー(DP: 修了認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

愛媛大学医学系研究科の基本理念は「患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療」です。そして、愛媛大学憲章には「自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする」と謳われています。

看護学専攻博士前期課程では、これらの基本理念に沿って、各地域の特徴に応じた新しい地域力の創造をはかり、地域におけるケア提供システムの構築やその中で保健・医療・看護の視点から生活を支援する専門職の育成を目的としています。また、高度な実践スキルや研究成果を外部に向けて発信するとともに、地域における保健・医療・看護の発展に貢献することを目的としています。

<育成する人材像>

保健・医療・看護の対象となる人々への深い洞察力、幅広い視野と柔軟な思考力そして高い倫理観を持ち、変化する社会のニーズに対応し、地域包括ケアを牽引する高度な専門的実践、及び保健・医療・看護の質の向上に向けて研究マインドを持って自己研鑽できる人材を育成します。

<学習の到達目標>

1. 専門領域の高度な専門知識と理論を専門的実践に活用できる。
2. 保健・医療・看護の実践の中で生じる問題に対して、倫理的な判断とエビデンスに基づき高度な専門的支援が実践できる。
3. 保健・医療・看護における実践、教育、研究の発展を目指して、自らの能力を向上していくことができる。
4. 保健・医療・看護の実践の中で生じる疑問に基づき、研究を実施し、公表できる。
5. 保健・医療・看護チームにおけるリーダーとして、多職種の役割を理解し、専門職間の協働・連携を促進することができる能力を養う。

<修了認定・学位授与>

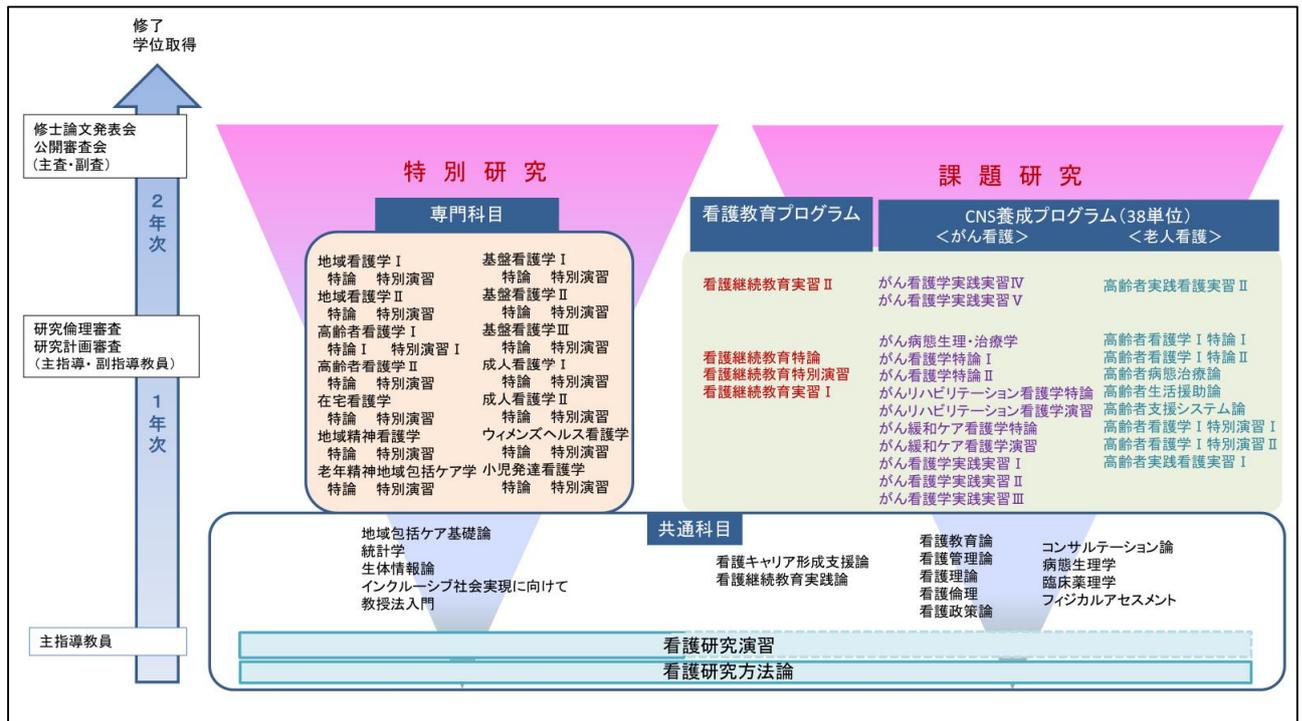
医学系研究科看護学専攻の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査を受け、修了要件を満たした学生に対して、修了を認定し修士の学位(看護学)を授与します。

課程のカリキュラム・ポリシー(CP : 教育課程編成・実施の方針)

< 教育課程の編成と教育内容 >

本課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目的を達成するため、「地域健康システム看護学」、「基盤・実践看護学」の2つの専門領域から構成される専門科目と共通科目を設けています。老人看護専門看護師養成プログラム、がん看護専門看護師養成プログラム、病院で教育を担当する看護師のための看護教育プログラムを実施しているため、多くの科目を共通科目として設置しています。共通科目では、看護研究方法論を必修として基本的な研究手法を学修します。また、そのほかの科目は選択制となっており、広範囲にわたる領域から自身の研究やスキルアップに役立つ科目を学修することができます。また、専門科目では各専門領域の最新の保健・医療・ケアの現状を学修することに加えて、指導教員や副指導教員のもとでそれぞれの専門領域における知識や研究遂行能力を養うことが可能です。さらに、社会人専門職者が職業と両立して学習を進められるよう、夜間・休暇中に開講を行うなど、学びやすい環境を整えています。

看護学専攻博士前期課程カリキュラムツリー



< 教育方法 >

共通科目ならびに専門科目では、各専門分野の教員による最新の知識の提供だけではなく、学生同士によるディスカッションやプレゼンテーションを通して課題解決能力や研究遂行能力を高めることができます。

主指導教員は当該分野の専門的な知識の教育や研究指導を担当し、副指導教員はそれをサポートします。

ディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を達成するために、研究計画の発表を行っています。これにより主及び副指導教員以外の教員からの意見を聞くことができ、研究の質を高めることができます。

<成績評価>

共通科目、専門科目いずれの科目においても、授業中のプレゼンテーションの内容、ディスカッション等に基づく授業への参加状況、さらに各科目の課題レポート等を得点化し、合計点で評価します。

<カリキュラムの評価>

修了認定、学位授与方針に示された能力が身につくカリキュラムや教育内容・方法になっているかカリキュラム・アセスメント・チェックリストに基づき検証します。

具体的には、リサーチ・ルーブリックによる学位論文の質評価、科目成績や研究活動の状況調査に加え、学生による授業評価アンケート、修了時アンケート、修了生アンケート及び就職先アンケートを実施し、到達目標の達成状況や学位の学術的水準について検証します。

課程のアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入の方針）

<求める入学者像>

保健・医療・看護における課題に取り組み、自由で先進的な考え方のできる人材を求めています。特に看護職者に限定しておらず、積極的な意欲のある学生を受け入れています。また、社会人入学制度や長期履修制度を導入し、働きながら学びと研究の場を求める人たちに対しても広く門戸を開いています。

1. 保健・医療・看護の各専門領域における知識や学術の将来に対する積極的な姿勢と展望をもっている者
2. 保健・医療・看護の発展に寄与し実践力、教育指導力、研究能力を高めるために主体的、建設的に学ぶことを目指す者
3. 将来にわたり自立して保健・医療・看護学の研究活動の継続を目指す者
4. 保健・医療・看護などの医療チームの中核となり、チームメンバーと協働する能力をもち社会に貢献できることを目指す者
5. 人間に対するより深い愛情と洞察力をもち、支援者として成長が期待できる者

<入学者選抜の方針>

課程のアドミッション・ポリシーに基づき、入学試験は「小論文」、「口述試験」、「英語」（一

般選抜及び外国人留学生特別選抜のみ)の学力試験及び成績証明書等を総合的に判断して判定します。

「小論文」では、保健・医療・看護に関連するキーワードに基づき、現状と課題の分析、保健医療従事者の役割を論じる力を評価します。これにより、論理的思考力や文章表現力、専門的知識の応用力を確認します。

「口述試験」では、研究計画についてのプレゼンテーションを行い、設定した研究テーマの独自性、実現可能性、学術的意義を評価します。また、個人調書を基に、自立的に研究を遂行する意欲と能力、自身のキャリア・ビジョンや研究目的がアドミッション・ポリシーで掲げる求める人材像と合致しているか、多職種間連携や社会貢献への関心、保健・医療・看護分野の課題に取り組む熱意を確認します。

「英語」(一般選抜及び外国人留学生特別選抜のみ)については、TOEIC L&R 又は TOEFL iBT の公式スコア提出を求め、博士前期課程を修了するための英文の文献を読み解く力、あるいは研究成果を発表するための基礎的なコミュニケーション力を評価します。

看護学専攻博士後期課程

課程のディプロマ・ポリシー(DP: 修了認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

保健・医療・福祉が「病院完結型」から「地域完結型」へと転換される中、医療機関の役割分担・連携の推進、そして在宅医療の強化が求められています。このような社会情勢の中、あらゆる発達段階・健康レベルにある人々が住み慣れた地域で健康に生き生きとした生活を送ることができ、医療や介護が必要になっても安心して生活できるような地域包括ケアシステムの構築が急務となっています。地域包括ケアシステムにおいて、保健・医療・福祉分野の専門職者は、療養環境を的確にアセスメントし、その人に合った高度な専門的実践をすることに加えて、それぞれの地域における医療体制や保健福祉資源を活用し、関係機関の他職種と協働・連携しながらヘルスケアマネジメントをする役割が求められています。

本学博士後期課程では、愛媛大学医学系研究科の基本理念「患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療」、そして、愛媛大学憲章の「地域に立脚する大学として、地域の発展を牽引する人材の養成」に沿って、地域包括ケアを牽引できる保健・医療・福祉分野の専門職リーダーを育成することを目的とします。すなわち、保健・医療・福祉における課題と人々の多様化かつ複雑化しているニーズに対応するため、広範な学識と豊かな人間性を基盤に、先端的かつ多角的な視点で看護問題を分析し独創的な方法で解決できる人材を育成します。

<育成する人材像>

本博士後期課程においては、以下の役割を果たすことのできる地域包括ケアリーダーを養成します。

1. 地域包括ケアシステム開発に必要な高度な専門知識を持ち、地域の保健・医療・福祉の全体を俯瞰し、地域や個人が抱える健康課題を科学的に分析・評価し、地域力を活かしながら解決へと導く。
2. 高度な専門知識を活かし、保健・医療・福祉の高度専門職実践者として地域包括ケアを牽引し、実践的指導力を発揮して、次世代を担う専門職者を育成する。

<学習の到達目標>

1. 国内外の文献検討やフィールドワークを通じて、地域包括ケアの発展やシステム構築における課題を見出し、課題解決に必要な研究テーマを提案することができる。
2. 地域包括ケア開発学の理論構築に資する研究テーマに基づいて、研究計画を企画・立案し、遂行することができる。

3. 地域包括ケア開発学としての科学的、かつ学術的に意義のある論文を作成することができる。
4. 論文の研究成果を国内外の看護系学会等で発表し、発信するために必要なプレゼンテーション能力が身についている。
5. 国内外及び自らの研究成果を活用し、保健・医療・福祉の高度専門職実践者として地域包括ケアを牽引し、次世代を担う保健・医療・福祉分野の専門職者を育成し得る高度な専門知識と実践的指導力を持ち、自らの実践領域における教育・研究をリードしていくことができる能力が身についている。

<修了認定・学位授与>

医学系研究科看護学専攻の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査を受け、修了要件を満たした学生に対して、修了を認定し博士の学位(看護学)を授与します。

課程のカリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

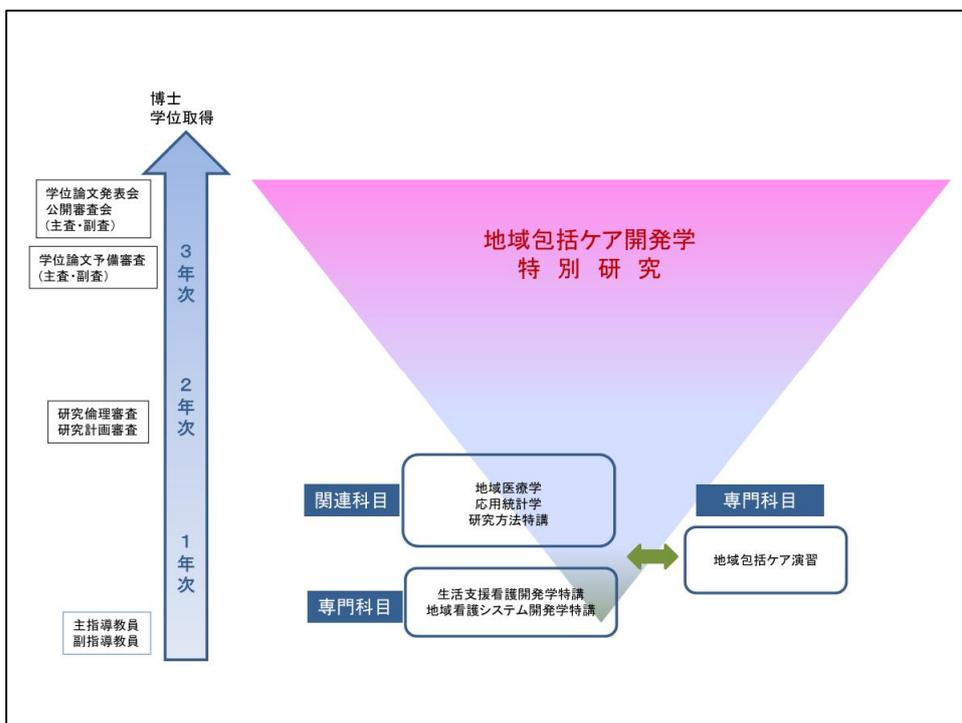
<教育課程の編成と教育内容>

本課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目的を達成するために、以下の教育課程を編成しています。

1. 専門科目は、あらゆる発達段階・健康レベルにある人々が住み慣れた地域で暮らし続けるための個々の健康課題を的確に把握し、解決のためのケアモデル・援助技術の開発やエビデンス構築について学修させる科目を配置するとともに、地域資源を活用し、マネジメントや人材育成によって、個人や地域の課題解決のための効率的・効果的なシステム開発を学修させる科目を配置しています。さらに、地域医療の現場で地域包括ケアの課題と解決策についてフィールドワークを行うことで、学生個々の専門領域における地域包括ケア開発に活用できる研究課題を考案することができるよう演習科目を配置しました。
2. 関連科目は学生の関心や研究課題に応じて選択できるように選択科目としました。地域包括ケアにおいて重要な役割を担う保健・医療・福祉分野の多様なあり方を学修し、学際的な視点を養う科目、研究計画、特に研究方法の立案に必要な知識・技術を補完するためのより高度な研究方法に関する科目、及びデータ分析に関する科目を設定しました。
3. 特別研究は、「地域包括ケア学」の発展に寄与できる新規性・創造性・応用価値のある

博士論文作成の指導を行います。

看護学専攻博士後期課程カリキュラムツリー



<教育方法>

地域包括ケアは、胎児期から高齢期までのあらゆる発達段階・健康レベルにある人々を対象としていることから、授業はそれぞれの領域の専門の教員によるオムニバス形式で実施します。これにより、学生自身の専門領域を超えた広い視野と地域包括ケアに共通する本質的な考え方を養うとともに、自らの専門領域の特性についての学びを深めることを意図しています。授業では、各教員が課した課題をもとに自己学習を行いプレゼンテーション、ディスカッションによって主体的な学修を支援します。さらに、実践の場の課題解決に役立つ研究課題の考案のために、演習科目ではフィールドワークを実施します。

博士論文の作成のための指導は、主指導教員と2名の副指導教員が行います。ディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を達成するために、研究計画書の審査、予備審査を実施し、主及び副指導教員以外の教員の指導を受ける機会も設けています。

<成績評価>

専門科目、関連科目いずれの科目においても、授業中のプレゼンテーションの内容、ディ

スカッション等に基づく授業への参加状況、さらに各科目の課題レポート等を得点化し、合計点で評価します。

＜カリキュラムの評価＞

修了認定、学位授与方針に示された能力が身につくカリキュラムや教育内容・方法になっているかカリキュラム・アセスメント・チェックリストに基づき検証します。

具体的には、リサーチ・ルーブリックによる学位論文の質評価、科目成績や研究活動の状況調査に加え、学生による授業評価アンケート、修了時アンケート、修了生アンケート及び就職先アンケートを実施し、到達目標の達成状況や学位の学術的水準について検証します。

課程のアドミッション・ポリシー(AP: 入学者受入の方針)

＜求める入学者像＞

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、以下の知識や技能、能力、意欲を持つ学生を求めます。

1. 保健・医療・福祉領域の研究に強い関心を持ち、分野の専門的な知識を有する者
2. 国内外の文献を読み解く語学力と分析力を有する者
3. 教育・研究者としてのコミュニケーション能力、ならびに理論的思考力を有する者
4. 自ら問題意識を持ち自立的に研究に取り組める者
5. 研究をとおして地域包括ケアの構築に貢献する明確な意思を持つ者
6. 博士後期課程修了後に、地域包括ケアを牽引し、自らの実践領域における教育・研究をリードしていく明確なキャリア・ビジョンを持つ者

＜入学者選抜の方針＞

上記アドミッション・ポリシーに基づき、入学試験は、「英語」の学力試験、研究計画についての「口頭試問」、修士論文、研究業績調書等により総合的に判断します。

英語の学力試験により、博士後期課程を修了するための英文の文献を読み解く力、あるいは研究成果を発表するための基本的なコミュニケーション力などの基礎的な学力を判断します。また、口頭試問では、地域包括ケアの構築に関する研究計画についてプレゼンテーションを行います。口頭試問及び修士論文、研究業績調書等により、自立的に研究を行う意識の有無、保健・医療・福祉領域に関する専門的知識の有無、地域包括ケアを牽引する意思の有無等を確認します。